

## ベータグルカンは Dectin-1 依存型でサイトカイン産生を誘引せずに

### マイクログリアを活性する

*Shah VB, Huang Y, Keshwara R, Ozment-Skelton T, William DL, Keshvara L*

*J Immunol, 180(5): 2777-85 2008*

マイクログリアは、中枢神経組織中に在住する自然応答、獲得応答に不可欠な単核貪食細胞である。他の免疫細胞と同じく、マイクログリアは病原性の様々な分子構造を認識することで活性する。ベータグルカンは多くの細菌細胞壁に存在する病原性の分子構造であり、免疫細胞の防御応答を開始させる。ベータグルカンに対するマイクログリアの反応と、潜在する応答 pathway をより理解するために、我々は、白血球中で最近発見されたベータグルカン受容体である Dectin-1 がマイクログリア中で同様なベータグルカン誘引活性の役割をするかどうかを調査した。この実験ではベータグルカン粒子が、マウスのマイクログリア表面に実際に Dectin-1 を発現させ、Dectin-1 の signal pathway の hallmark である脾臓チロシンキナーゼのチロシン phosphorylation の増加に結びつくことを報告する。更に、ベータグルカン粒子貪食とそれに引き続く反応水素が Dectin-1 によって誘引される。しかしながら、マクロファージや樹状細胞とは異なり、ベータグルカン誘引のマイクログリア活性はサイトカインやケモカインの有意な産生とはならなかった；しかして、グルカンとマイクログリア Dectin-1 の相互作用は独自の応答であることを顕在化している。我々の結論は、Dectin-1 の pathway が中枢神経中の抗真菌免疫の重要な役割を果たすことを示唆している。 了